

2007年世界レスリング選手権大会のゲーム分析

Game analysis of the 2007 world wrestling championship

1K05A042

大月 葵斐

指導教員

主査 太田章先生

副査 小野沢弘史先生

はじめに

私は中学1年生からレスリングを始めた。そのきっかけは、親が知り合いからこのスポーツの存在を聞き、連れて行かれたからである。最初は、嫌々やっていたことをよく覚えている。それから2ヵ月後に初めての試合があり、この試合で勝ったことで、私はレスリングにのめり込むこととなった。その後のレスリングは、自ら打ち込むようになり、勝つための研究をするようになった。レスリングを始めてから10年がたったが、今でも研究⇔練習を繰り返し、今では世界で勝つために努力の日々を送っている。そこで本研究では、自分が世界で勝つために、また日本が世界で勝つために、世界でどのようなレスリングがされているのかを研究し、分析していこうと思う。

第1章 レスリング概要

レスリングは、人類最古のスポーツであると考えられている。この頃からレスリングは、素手で行なう格闘技とされ、二人の選手がお互いに技を用いて相手を組み伏せ両肩を地面に押し付けようと競いあう競技として始まった。紀元前708年の第一回古代オリンピックの競技種目でもあり、その後、1896年の第1回アテネ大会からオリンピック競技となる。現在も男子(フリースタイル・グレコローマンスタイル)、女子が行なわれている。以下で、日本レスリングの歴史(男子・女子)、レスリングの基本・スタイルと特徴・ルール・勝敗決定の評価についてまとめた。

第2章 研究方法

【調査対象】

2007年9月19～21日にアゼルバイジャンのバクーで開催された世界選手権—男子フリースタイル—参加国75ヶ国、55kg級、60kg級、66kg級、74kg級、84kg級、96kg級、120kg級の7階級、選手300名、全340試合を対象に行なった。

【調査方法】

世界選手権を録画したDVDを用いて、試合の記録用紙を独自に作成し、1試合ごとにポイントを獲得した技の種類、ポイントの大きさ、内容を調査した。その結果を階級ごとにまとめ、分析を行なった。

以下で、技の種類・技とポイントの関係についてまとめた。

第3章 結果・分析

2007年度の世界選手権、男子フリースタイル、55kg級から120kgの340試合。ポイントを獲得した種類は31種類、回数は1557回という結果であった。全階級で共通していたことは、タックルでポイントを多く獲得していること、場外でのポイントや、がぶりバックのポイントが多いということである。タックルは両足タックル、片足タックル、ハイクラッチの3つが中心となってポイントを獲得し、その中で片足タックルが多く獲得という結果であった。場外は、押出しと上記の3つのタックルのポイントがあり、押出しでのポイントと、タックルでは片足タックルが多いという結果となった。そして、がぶりバックは組み手を使って相手のバランスを崩す、または相手がタックルなど入ってきたところを切ってバックを取っていた。これらから言えることは、がぶりバックやタ

ックルでポイントを取りにいつているということと、場外に出してポイントを得ようとする選手が多い傾向にある。どちらにおいても片足タックルが用いられていて、片足タックルが重要なポイントであった。

まとめ

私自身が考えていた世界のレスリングと実際の

世界のレスリングは一致している部分もあるが、勝つために必要なことはタックルで取ることが重要なポイントであった。これからの日本が世界で勝つためには、これが必要であり、常に攻撃し続けることが大切である。そのためには、試合で出せるように練習の中から研究し、取り組む必要があるだろう。